

会 議 録

会 議 名 (審 議 会 等 名)		平成18年度 第3回 川西市青少年センター運営委員会	
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)	
開 催 日 時		平成19年3月28日(月) 10:00~11:30	
開 催 場 所		川西市ふれあいプラザ3階 研修室	
出 席 者	委 員	村木 修、安田忠司、田畑晶雄(代理)、森田文英、松尾幸恵、片原けい子、渋谷敏彦、佐伯直樹、鈴木富士雄	
	事務局	仲 義弘、溝上好弘、上中敏昭	
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数
傍聴の不可・一部不可の場合は、その理由		0人	
会議次第		1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 協議事項 (1)平成18年度 川西市青少年センター事業総括 (2)平成19年度 川西市青少年センター事業方針 4. その他 5. 閉会	
会議結果		協議事項は(案)どおり了承	

2、会長あいさつ

今年度の青少年センター運営委員会にお力添えを頂き感謝している。子どもの問題行動が減少しているわけではない。子ども達は、問題を抱えながら日々の生活を送っているが、それは子どもが生きているという証である。私達のたゆまぬ関わりがいつかは良くなると祈念している。今年度の活動報告と来年度に向けてのご意見をお伺いし更なる充実を図りたいと思う。

3、協議事項（1）

（1）平成18年度 川西市青少年センター事業総括

<事務局説明>

質疑応答

（委員）

17年度に比べ18年度の補導委員情報が減っている。特徴的な内容を教えて欲しい。

（事務局）

市内における少年犯罪は減少傾向であるが、不良行為で補導する件数は増加している。

その内容は、喫煙や深夜徘徊が中心であり、青少年の行動が深夜型になっている。青少年補導委員120名は全地区で25班に分かれて補導活動を行っている。児童生徒の下校時や夜間に巡回をしているが、深夜の巡回は難しい。このような事もあり深夜型になっている子どもに遭わないのが一つの要因である。繁華街補導グループは、夜間に川西能勢口駅周辺のゲームコーナー等を巡回しているが、子どもに遭うのが以前より減っていると報告を受けている。ゲームコーナーの方に聞いてみると時間帯が以前より遅くなり深夜に来るのが多くなってきたと話されていた。

もう一つは、補導委員が着用する黄色のジャンパーが定着してきているので、子ども達への抑止に繋がっている。

声かけについては、未然防止の効果があり喫煙行為が減少している。不審者・変質者については、地域・保護者・ボランティアの方々の意識が高まり若干ではあるが減少傾向にある。放置自転車・バイクについては警察による取り締まりの強化や二重ロックの啓発等により減少している。しかし、迷惑行為や危険行為、ゴミの散乱等の誰がしたのか分からない事象が気になる。

（委員）

補導委員情報と地域・学校情報は分かるが、警察からの情報を入れて調整をして欲しい。

交通違反11件の内容を聞きたい。

（事務局）

警察は勿論取り締まっているが、2人乗り、無灯火等について補導委員も注意をしている数字である。又バイク乗車の情報が入り、声かけは出来ないが見た事も報告して頂いている。

（委員）

補導委員がされる補導活動の時間や場所は決まっているのか伺いたい。子ども達は決まった時間や場所であれば、補導委員が来ない時間、場所を避けると思うので、調整される方が効果があると思う。

青少年センターだよりに補導委員・学校・地域からの情報があるが、地区からの要望などが取り入れられているのか伺いたい。

(事務局)

補導委員の基本的な活動時間帯は、小学生低学年、高学年、中学生の下校時間と夜間である。場所については、情報や現状に応じて決めている。

毎月開催する定例会の情報を受けて、青少年センターで検討しながら記載するようにしている。紙面の都合もあるが正確な情報を出すように努力したい。

(委員)

補導の時間帯は地域の状況に応じて工夫している。殆ど毎回変えている。店舗の方との話では、午後11:00頃から子ども達が集まるので、本当は深夜の補導が望ましいと思うが、現状は無理である。しかし夏休みには、午後8時から10時頃まで行っている。

青少年センターだよりについて、本当はたくさん載せて欲しいと思うが、紙面上の都合やプライバシー等の事があるので限りがある。

(委員)

青少年センターだよりを議会にも配って欲しい。

(委員)

今年度の子どもの状況を教えて欲しい。

自転車に乗って学校へ行き帰りする生徒がいる。中には3人乗りをしている場面に遭う。見かけたら注意をするが、同じ子が繰り返している。

夜間補導をしている時に気になる事は、塾が終わり、帰る時刻に子ども達の気が抜けるのかコンビニエンスストアに立ち寄り遅くまでいるのを見かける。

コンビニエンスストアで万引きを見たことがある。又、休日に部活動で試合がある時等たくさんの子どもの店に入りマナーの悪い場面を見るので、先生の指導が必要と思う。

(事務局)

学校への支援指導の数字は昨年より減少しているが、関係機関との連携の数字は増加している。対応が難しく関係機関とのケース会議や調整などの連携が必要である。

又、学校生徒指導担当との連携は重要で、子どもの様子を見ながら非行防止に努めている。子どもとの関係を維持し、抑止力になるようにと考えている。市内の状況は、暴力行為、器物損壊は少し増えてきているのが気になっている。

(委員)

市内中学生がいろいろと問題行動を起こし申し訳なく思っている。学校だけで解決できない事がある。問題が発生すれば地域・関係機関へ報告し必要に応じて支援を仰ぐ事もしている。今後も全力を尽くしていきたい。

(委員)

高校では年々規範意識の低下を感じる。子育ての段階での支援が必要ではないかと思う。幼い頃からの継続的な子育てが今の高校生の姿である。高校になって対処療法の指導では反発がある。根本的な方策を検討していく事が急務である。最近、小中高校の連携の取り組みを行っている。

(委員)

規範意識が希薄になっている。学校等で話し合いの場に来て欲しい親は出席しない事が多い。様々な社会マナーやルールの欠如は学校だけの責任ではないと思う。

(委員)

先ほどの部活動でのマナーの件で、指導者の意識が子どもに伝わると共に親の意識も子どもに伝わる。食べ散らかし等の迷惑行為を見かけるが、教師の指導も大切であるが、地域からも注意をお願いしたい。

(委員)

青少年に関する会議で警察の話聞いた。問題を起こす子どもは家庭の問題があると言われていた。学校で出来る事には限界がある。規則や規範を中学校でいきなり言っても子どもには感覚がない。子どもは親を見て育つ。家庭があるから子どもは健康に育つ。家庭へ周囲が踏み込めない事があるが、どこかで子どもを救える事ができればと思う。

(委員)

家庭は指導が出来ない。行政は啓発をする。今後どの様に対応していくかが課題である。

(委員)

青色回転灯の状況を伺いたい。効果があれば積極的に取り組んでいけばと思う。各種安全講習会及び不良行為防止教室の実施について詳細を伺いたい。

(事務局)

青色回転灯は青少年センター2台、防災安全課1台所有している。地域では緑台、清和台が所有し、市内に5台ある。青少年センターでは毎週水曜日に市内全域を児童生徒の下校時間帯に巡回をしている。複数乗車の為、人的要因により今のところ台数を増やす事は考えていない。巡回の効果はある。

平成18年度の各種安全講習会及び不良行為防止教室の実施状況は、非行防止教室5回、不審者対応訓練13校、子ども防犯教室12回実施した。16年、17年、18年で全ての幼小中学校で実施した。その他県警ホットライン講習会も行った。学校の状況に応じて、阪神北少年サポートセンター、川西警察、青少年センターでできるだけ希望に添えるように実施している。来年度は保護者・地域に参加する輪を広げるのが課題と思っている。

(委員)

効果があるのであれば、地域へ広報活動をすれば良いと思う。

(委員)

地域の盛り上がりがあり、多くの声を受けて行くと良い。

(委員)

自治会・防犯の車に装着は難しいのか。

(事務局)

手続きは川西警察が窓口で行っている。

(委員)

交通法令上条件がある。個人車両は許可が出ない、詳しくは確認する。

(委員)

地域で申請し台数を増やすようにすれば良いと思う。

(委員)

民生委員から観た家庭や子どもの状況で心配なところは何か伺いたい。

(委員)

虐待の問題が大きい。朝ごはんを食べさせない保護者。近所の方が手を出そうとして

も保護者が拒むので、対応に苦慮している。

(委員)

警察補導件数が増えている状況を伺いたい。

(委員)

少年補導件数(2月末)213件で昨年は198件、15件の増加。内容は喫煙、深夜徘徊が全体の90%を占める。

少年犯罪は18件検挙で6名を逮捕した。内容はオートバイ、自動販売機荒らし、店舗荒らし、学校器物損壊である。

(委員)

その様な状況で危惧するところを伺いたい。

(委員)

川西だけではなく県下及び全国的に少年のグループ化が進んでいる。検挙すると素直な少年の姿が見られる。家庭環境が最大の問題であるケースが多い。

協議事項(2)

(2)平成19年度 川西市青少年センター事業方針について

<事務局説明>

質疑応答

(委員)

ご意見をまとめると、地域への活動の充実を図る。塾の終了時間の対策を行う。問題行動を起こす児童生徒への指導と保護者への支援の具体化を検討する。青少年センターだよりに啓発的な視点を載せる事を検討。他に何かあれば伺いたい。

(委員)

「こどもをまもる 110 番のおうち」のバラつきがあり機能するか気になる。小学校が窓口なので改善を依頼している。安全旗は良く目立つので効果がある。協力家庭の玄関ドアに鍵がかかり緊急時に対応できるかが心配である。地域へPRをし、市民の力で協力家庭を増やす事が重要である。学校安全協力員は効果がある。市民の力を有効に使っていると思う。

(委員)

「こどもをまもる 110 番のおうち」について、子どもが卒業したら辞めると言うことはあるのか、その他詳しく伺いたい。

(事務局)

留守家庭の問題はある。小学校を窓口として新規並びに継続確認をしている。学校によっては、PTA、自治会、コミュニティが中心に行っている。今年度全児童に配布した、学校安全マップにこどもをまもる 110 番のおうちが載っているので見直していきたいと思う。子どもが卒業したら辞めると言う事は少ない。

(委員)

補導委員の活動を聞いているとハードであると思う。費用はどの様になっているか。

(事務局)

2年前から活動費として420万円を補導委員会に支出している。各地区へは平均30から40万円程度になる。

(委員)

個人の補導委員へは渡しているのか。

(事務局)

審 議 経 過

No. 5

地区により異なっている。その他に活動費の中で 1 回 1 0 0 0 円として費用弁償を行っている。

(委員)

各地域で問題は出ていないか伺いたい。

(委員)

交通費などの負担を受けているが、基本的にボランティア意識で補導委員をしている。問題はない。

(委員)

基本的にはボランティアで活動する事が望ましいと思っている。感謝の気持ちを持ち合いたい。

4. その他

(事務局)

移転についての報告

6月2日 パルティK2へ移転。6月4日から通常業務をする。

5. 閉 会